

先進地に学ぶ 行政視察報告から

議会広報特別委員会

期 日 平成18年8月3日(木)

8月4日(金)

視察地 秋田県湯沢市・仙北市

◎湯沢市

平成17年3月22日に湯沢市・稲川町・雄勝町・皆瀬村が合併し、新湯沢市が設置され、行政面積7百90・64km²の広大な面積を有し、本庁一部分散方式・総合支所方式をとっている。

議会広報委員会委員の選出は4常任委員会から2名ずつ選出しており、委員会活動を重視している。

文字の割付は(一般質問のページを除く)横書きを採用し、読みやすさに努めるとともに、一般質問の紙面については、質問者自らが質問要旨と答弁要旨をまとめており、質問者の顔写真を掲載している。

◎仙北市

平成17年9月20日に角館町・田沢湖町・西木村が合併し、仙北市が設置され、行政面積1千93・64km²(当市の約3.9倍)の広大な面積を有し、分庁舎方式をとっている。

紙面構成は一般質問において、発言者氏名と顔写真を掲載しており、質問者一人につきA4判1ページ、約1千6百文字を割り当て、顔写真、イラスト、質問に即した写真などを多用し、全紙面のおよそ80%を一般質問のページにさいっており、原則として議員本人の原稿を尊重し、読みやすさ、わかりやすさを追求しており、中見出しの字体・サイズ・文言にこだわりを持って編集をしている。



仙北市視察

建設水道常任委員会

期 日 平成18年10月3日(火)

10月5日(木)

視察地 福岡県大野城市

大分県日田市・由布市

◎福岡県大野城市

【交通バリアフリー基本構想並びに事業計画について】

道路や施設等の整備水準の向上を図るとともに、安全で快適なネットワークの形成、市民に密着した生活道路の充実をとおして将来の町の骨格に合わせたバリアフリーを実現すると同時に協働、連携によるバリアフリーへの取り組みをとおして優しさを育むまちづくりをめざしている。

平成22年までに、西日本鉄道(株)、JR九州、福岡県公安委員会などと一体となり、バリアフリー基本構想を実現して行く計画である。

この事業を進めるにあたっては、国・県の補助を受けることなく、市の単独予算で実施しており、財政上の負担が極めて大きい。

◎大分県日田市

【水郷(すいきょう)のまちクリーンアップ制度(アダプトプログラム)】

アダプトプログラムとは平成14年4月から実施している公共施設の美化奉仕活動であり、ボランティア活動に意欲のある団体に、市・国・県が管理する市内の公共施設(公園、道路、河川等)の「里親」になってもらい、その一定区域を「養子(アダプト)」に見立て、ボランティアで定期的に清掃・美化活動をしてもらうものである。

平成15年度は、33団体(企業、自治会、中・高校生など)1千9百44人の方々が「里親」として、公共施設の一定区間で定期的に美化活動を行ない、管理区間のごみが大幅に減少した。

この制度の成果として美化活動はもとより、地域のコミュニティの活性化が図られたことが大きい。

◎大分県由布市

温湯(ぬるゆ)地区(旧湯布院町)「くらしのみちゾーン」

湯布院観光の中心地区内への通過交通を排除し、住民、観光客の歩行の安全を確保する。また、シンボルである由布岳への眺望景観を改善し、舗装の高質整備と同時に沿道店舗、住宅を湯布院らしい景観で統一する。

▲施策の内容▽

- 道路幅員の意図的縮小
- 駐車場の総合的管理(予約システム、田園無料駐車場の整備)
- 観光車両の進入量の削減(パーク&ライドの実施)
- 無電柱化および店舗看板、道路舗装、ポケットパーク、店先の空間整備、案内サインのデザイン化

